



リリース日：2022年3月2日

尚絅学院大学「東日本大震災10年間の取組み」 ～つなげる つたえる つづける 地域と共に生きる～ 刊行について

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、早いもので2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年が過ぎました。東北各地を中心に甚大な被害をもたらした、地震・津波・原発災害を決して風化させぬよう、また次世代に本学の取組みを語り継いでいくために『東日本大震災10年間の取組み つなげる つたえる つづける ～地域と共に生きる～』を刊行いたしました。

概要は下記の通りとなっておりますので、是非貴社で取り上げて頂けますようよろしくお願いいたします。

書名：『尚絅学院大学 東日本大震災10年間の取組み』

編集：尚絅学院大学 地域教育・研究センター

発行者：学長 合田 隆史

発行：尚絅学院大学出版会 〒981-1295 名取市ゆりが丘4丁目10番1号

発行日：2022年2月28日

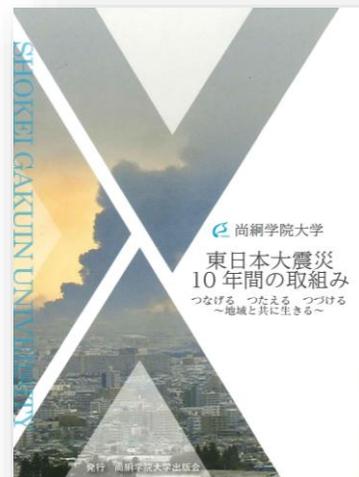
主な内容：教職員の体験談、震災直後からの本学の諸対応、各教員の研究への取り組み、ボランティア活動、今後の防災について 他 ※概要は2枚目をご覧ください。

※今回の刊行にあたり、東北6県の高等学校、自治体、宮城県内の図書館、学都仙台ネットワーク、名取市公民館等に配付しております。一般販売は行いません。そして本書を希望する方には、先着100名に限り、贈呈する予定です。そのあたりも是非取り上げて頂ければ幸いです。

※なおこの件について、記者発表会を予定しております(3月8日予定)改めてご案内させて頂きますので、よろしくお願いいたします。

【問合せ】尚絅学院大学 教育研究支援課 担当/原田 紀

Tel:022-381-3502 Mai:ksien@shokei.ac.jp





『東日本大震災 10 年間の取組み』 概要

東日本大震災から得たこと … 学長 合田 隆史 (抜粋)

「震災以来、尚絅学院大学の教職員も学生も、それぞれの方法で、様々な活動に取り組んできたが、その中でも、尚絅らしさを最も体现しているのは、学生ボランティアチーム TASKI の活動だろう。TASKI の活動紹介の冊子を見ると、震災発生直後、まず学生たちが名取市災害ボランティアセンターのスタッフとして活動を開始した、とある。学生たちの活動で得たことについては「いろいろな人と出会えたこと、“繋がり”の大切さを知ることができたこと」「活動を通して出会った人との繋がり、単純に震災のことを知る、で片付けられるものではなく、自分の視野を大きく広げてくれた偉大な存在」「卒業後も大切にしていきたい」と語っている。

名取市は 2020 年 3 月に震災からの復興を達成したことを宣言した。尚絅学院大学の Mission もそろそろ「被災地と共に生きる」から「地域と共に生きる」と言い換えるべきかもしれない。さらには 2015 年の台風 18 号での大崎市での活動、2016 年熊本大地震、2017 年九州北部豪雨などで、他大学との合同の学びの記録も残されている。それらの経験から、新しい知を生み、次世代に伝え、またその知をよりレジリエントなコミュニティ形成のために活かしていくという Mission を私たちは担っている。

尚絅学院大学が東日本大震災から得た最も大切なものは、震災前には自覚されることのなかったその Mission そのものなのではないか。」

<本書の構成>

- ・巻頭写真集
- ・はじめに(理事長挨拶)
- ・本学の沿革
- ◆第 1 部
 - ・当時の体験談…教員、職員、旧職員など
 - ・大学としての検証…震災当日からの本学の対応、勤務体制、安否確認、被災地への高校訪問、被災地の受験生に対する特別措置(授業料減免等)、「震災を検証する会」報告、他
- ◆第 2 部
 - ・教員の研究の取組み(研究発表 9本)
 - ・地域への貢献…復興支援活動、岩沼市集団移転事業への関り、
 - ・今後の防災に関する地域と大学について
 - ・ボランティアの継続 他